

		番号	地域課題	ポイント	手立ての 必要度	手立て (対応策の検討)
高齢者の ニーズ		3-1	独居で遠慮がちな人が助けを求められる機会がない。	見守り体制作り 住民との連携	○	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる環境作り ・若い世代が支援者として活躍できる仕組み作り ・市民自ら担い手となり参加機会の充実 ・身元保証会社の活用
		3-2	集いの場に行こうと思えない。	外出への意欲が向上する仕組み作り	○	<ul style="list-style-type: none"> ・行動をポイント化することで、目に見える形で評価し、意欲向上させる仕組みを作る ・歩いて行ける体操教室の場所を増やす ・自宅での体操を促す取り組み（オンラインやケーブルテレビの活用） ・健康ドームの活用し一本化（通いの場・スマホ教室・体操教室など実施）
		3-3	日常生活の中で交流できる場所が少ない。	地域で受け入れてくれる場所や人員の確保	○	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー等の店舗の一角が地域交流の場になるような環境作り ・傾聴ボランティア派遣
		3-4	食事内容が偏る。	栄養指導の機会 フレイルの評価	○	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職からの栄養指導が受けられる機会を作る ・具体的な食事内容と摂取量のアセスメント
		3-5	趣味活動の成果を披露する場がわからない。	場所の情報提供	○	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味で作った物を披露できる場所を作る ・地域住民が、趣味活動を披露できる場所を広く知ることができるようにする
住民・地域の課題		3-6	宅配スーパーの存在や利用方法が周知されていない。	買物支援	○	<ul style="list-style-type: none"> ・とくし丸や宅配スーパー、ネットスーパーの利用を援助する仕組み作り ・スマホ教室
		3-7	ごみ収集場まで歩いて行けない。	情報提供	○	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別収集ができることの情報提供 ・地域で手伝ってくれる人を募る ・地域差があり、自治体単位で話し合う
		3-8				
社会資源の課題	介護	3-9	購入の福祉用具が活用しにくい	福祉用具の再検討		<ul style="list-style-type: none"> ・専門職から生活動作の評価とリハビリを提案
		3-10	柔軟に使える保険外サービスが少ない	受診援助		<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティアの発掘 ・移送サービスや民間タクシーを利用
	医療	3-11	自分の症状を主治医にうまく伝わらない	医療連携と連携方法		<ul style="list-style-type: none"> ・書面で情報提供し、フレイル状態にあるものを適切に医療サービスに接続
	住まい	3-12	段差の多い家が多い。	転倒予防のための提案		<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防のため、住環境を整えるアドバイスを受ける機会をつくる
支援者の課題	専門職の 数、資質	3-13	介護サービス事業所が少なく人員も不足している。	人材確保		<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業でも参入できる仕組みをつくる ・ヘルパー等の人材確保
	連携、 ネットワーク	3-14	サロンや通いの場の重要性和周知不足	多職種連携 レインボーネットの活用		<ul style="list-style-type: none"> ・運動・社会参加・栄養を総合的に評価し本人に意識づけと必要性の啓蒙